

## 設立趣意書

平成 19 年 8 月

ノーマライゼーション (Normalization) という言葉が、さまざまところで使われるようになった平成 5 年 4 月、発起人 (村松綾子) は知的障害を持った方と関わる仕事を始めました。発起人が障害を持った方たちと関わる仕事がしたいと思ったのは、大学生時代に実習させて頂いた知的障害者入所施設での支援員の利用者さんに対する暖かい対応と、利用者さんたちの生き生きとした表情を拝見してからだそうです。初めての施設実習で緊張していた発起人を利用者の方々が暖かく迎えて下さった笑顔は、今でも忘れられないとのこと。発起人も「こんなに暖かい笑顔を見せて頂けるような支援者になりたい」と思い、また彼らといると自然と心が安らぎ癒される自分に気づき福祉の仕事を選びました。

しかし、大型施設生活の中では、我慢して頂かなくてはならないことが多く、それがストレスとなって自傷や他害等の問題行動になってしまったり(それだけが原因ではないこともあります)、年齢相応の対応ができず、自分でできることにも手や口を出してしまったりなど……。このような支援でいいのだろうかという思いが募ってきたそうです。また、高等部卒業後の選択肢が少なく、授産所通所ならまだ良いほうで、それのできない重度の方は必然的に一般社会から隔離された施設入所になってしまうという現実におち当たり、何もできない自分に苛立ちさえ感じたようです。我々も保護者の方々も同様の現実におち当たり、同じ思いに駆られていました。

どうして知的障害があるからといって一般社会から隔離された暮らししかできないのか、あたりまえのことをどうしてもっと国が保証・担保しないのか、重度の知的障害を持っていても適切な支援を受けられれば、一般社会 (地域) であたりまえに暮らすことができるのではないだろうか。

いくつもの選択肢があって、適切な支援を受け、地域住民の方々の理解と、こちらから働きかけることによる親睦が形成できれば、地域で生活しその地域の人たちと共生できるのではないだろうか。

ノーマライゼーションはどうしたら確立できるのだろうか。私たちにできる事は無いのかということと一緒に考えるようになりました。

私たちと出会う前から、発起人は「自分にできるちいさな第一歩」と言って、(仕事において関わりをもった)施設暮らしの知的障害を持つ方々の余暇が少しでも充実して頂けたらと、月に 1 回の外出ボランティアしていました。何度か彼らと外出をしているうちに、周囲の方々も手伝ってくれるようになって、輪が広がり、ボランティアサークル「とびだせ青春!くじらの会」という活動が始まりました。市職の方々やボランティアの大きな支えもあり、この活動も今年で 8 年目(平成 23 年現在:12 年目)を迎えています。現在、バス旅行・バーベキュー・いも煮会・お祭りへの出店など、活動の幅も広がっています。参加者も大型バス 1 台では間に合わない数となっています。

我々も発起人を中心に、生活寮やグループホームについていろいろ学びました。見学やお手伝いもさせて頂き、地域移行への難しさも知りました。

しかし、グループホーム・ケアホームができれば、保護者のいない方や施設入所で一生終わる方も地域で生活できる。また、少人数のほうが落ち着いて過ごせる。少人数なら一人一人に合った細やかな支援が出来るのではないか。必ず地域の方々も理解してくれる。などと自分達なりにいろいろ考え、地域に根づいたホームを作ろうと思うようになりました。(もちろん大型施設も必要です。そのほうが安定して生きてゆける方もいらっしゃいます。)

現在の目標はケアホームを設置・運営することです。平成18年10月に自立支援法が施行されました。この法律には賛否両論あります。地域で生活するための給付が少なく穴だらけという批判もあります。しかし、彼らにとって地域で相性の合う人と暮らす良いチャンスがやってきたのではないかとプラスに考えました。さらに、福祉を行う法人のくくりも広がったこの機会だからこそ公益NPO法人の設立を決意した次第です。

私達は、今までの経験によって身に付けたスキルやノウハウを、社会に貢献する「力」として活用したいと思っています。そして、ゆくゆくは知的・精神障害者、老人・児童の一般地域での共生を目標に、誠心誠意「夢と志」をもってこの事業に取り組んでいこうと考えております。

公益NPO法人 くじら

設立準備同志会

会長 村 松 輝 昌

補佐役 佐 藤 順 仁